研究推進だより　NO．３

令和３年　　７月 19 日
大田区立　　出雲小学校
校　　長　　関　眞理子
研究主任　　岩﨑　光子

令和３年度校内研究主題
未来を創る力の育成　～未来ものづくり教育を通して～

７月８日（木）第３回目の研究授業では、中学年分科会として、理科「明かりのつくおもちゃをつくろう」では、岩﨑　光子主任教諭、５組分科会として、図画工作科「５組山動物園をつくろう」では、野口　沙織教諭が行いました。

中学年の目指す児童像
○ものづくりに携わる人々の工夫、努力、喜び、苦労を知り、ものづくりを楽しむことができる子。 ○学習したことを活用して、イメージしたことを試行錯誤しながら表現できる子 ○身の回りの環境や人々の困り感に気付き、自分たちには何ができるか考えることができる子

理科「明かりのつくおもちゃをつくろう」

３学年理科「明かりのつくおもちゃをつくろう」では、電気の性質（回路ができると明かりがつくこと、金属は電気を通すこと）について学習しました。研究授業では、学習した電気の性質を使ってつくったおもちゃを、「２年生にしょうかいするために、レベルアップさせる。」時間でした。この日は、大田区内の大森学園高等学校（工業科）の先生とおもちゃの病院に携わっている生徒の皆さんが、レベルアップのお手伝いに来てくださいました。子どもたちは、「ここをこうすると、明かりがつく仕組みなのです。」「もう一つ豆電球をつけたい。」などと、設計図をもとに、自分の思いをすすんで伝えていました。回路を得意としている高校生のお兄さんやお姉さんから、「こうすると、どうかな？」「これだと電気がつかないね。」等のアドバイスやヒントをもらい、「なるほど」「やってみる」と、おもちゃづくりのレベルアップに熱中していました。

「ものづくり活動の充実」

講師の秋山　亮先生からは、本時の学習について、大森学園高等学校の生徒との交流について、「各グループに１名以上高校生がいることが、児童の課題解決の助けとなっていてよかった。」「意欲を引き出していた。」等、高校生との交流活動は、ものづくり活動を充実させる面で、よい取組であったことを評価していただきました。

本校では、どの学年でも地域にある企業や近隣の工場、東京大学CAST、とびはぜ倶楽部、伝統工芸六郷とんび凧の会等、授業協力者の方々と連携した授業づくりに力を入れて学びを深めています。これからも、「ものづくり活動の充実」のために、誰（授業協力者）とどんなことができそうか、教師自身も試行錯誤しながら、よりよい授業をつくっていきます。

大田区教育委員会
指導課　指導主事
秋山　亮先生

５組の目指す児童像
○日常生活に必要なスキルを身に付け、ものづくりに取り組む子 ○一人ひとりの心身の特徴に合わせ、自分なりに形にする子 ○分からないことをたずねたり、困ったときに助けを求めたりしながら、ものづくりに取り組む子

図画工作科「５組山動物園をつくろう」

生活に身近な材料（空き箱、ストロー、段ボールなど）を使って、動物園をつくる制作活動を通して、友達と協働し、課題解決に向けて試行錯誤する力を伸ばしました。６月２４日に、野毛山動物園へ校外学習に行き、動物の周りの様子（木、小屋、柵、岩など）がどのようになっているのかを見てきました。７月２日に、ＮＨＫ「つくってあそぼ」のわくわくさんでおなじみの久保田雅人氏に、ものづくりの基礎として牛乳パック１本分で作る３つのおもちゃを教えていただきました。ものづくりで大切なこと等を聞き、ものづくりは失敗したら最初に立ち戻ること等、子どもたちの学びが深まりました。

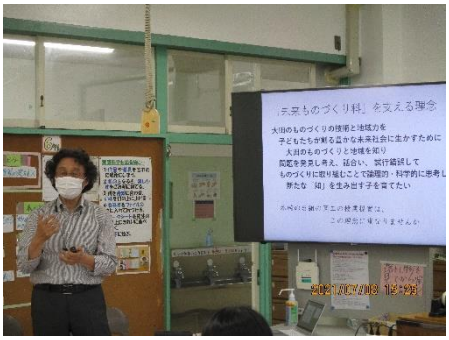
７月８日の研究授業では、制作過程の作品を子どもたちが見合って、作品のよいところを見付けたり、アドバイスを伝えたりする活動を行いました。「透明のカップの中にビニールを入れていて、本当の氷のように見えました。」「丸太の横の方は、茶色を少し薄くした色がいいです。理由は、木の色だからです。」など、根拠を添えて伝え合うことができました。みんなで「５組山動物園」をよりよくしようと、一生懸命に学習しました。

１年生～６年生が、教え合い、学び合いながら取り組んだ「５組山動物園を作ろう」の作品は、２月５日の展覧会で展示していきます。ぜひ、どのような動物園ができるのかを、楽しみにしてください。

「特別支援学級におけるものづくり教育」

講師の清水　一豊　先生からは、「鑑賞の学習について」お話をいただきました。「子どもたちが課題を発見するために、教師側の問いかけが大切であり、問いかけによって、課題を解決しようという思考につながる。」ということを教えていただきました。話し合いの際に、「どうして、そう思ったの？」「どこを見て、そう感じたの？」と、教師が問いかけ、子どもが答えることで、根拠をもって伝え合うことができるように、今後も研究を続けます。

ものを協力してつくり上げることは、生きる力を育むために必要なことや、上学年の子と下学年の子が、学び合いをしていたことなどと、取り組みの評価についてご示唆いただきました。今回学んだことを生かして、子どもたちの学びにつなげていきます。



立正大学　　清水　一豊　先生